



TITLE:

大阪プラネタリウムだより

AUTHOR(S):

高城

CITATION:

高城. 大阪プラネタリウムだより. 天界 1938, 19(212): 56-56

ISSUE DATE:

1938-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167756>

RIGHT:

大阪プラネタリウムだより

◆去る 8 月 3 日、大阪支部がプラネタリウム特別演出によつて例會を開催した。主題は流星・變光星・黄道光で、各々觀測界の「通」が集つて和やかな趣味者の會合であつた。

◆8 月から夜間開演を利用して、屋上で 10 輻屈折機で月や遊星の觀望を一般に公開し、係員の説明によつて、大阪の都心では珍しい天界の美景を樂ませた。中にも宵の明星(金星)の奇觀、月世界の不思議、木星の壯觀には誰しも感嘆の聲を放つた。

◆毎日公衆を前に天上界を案内し、奉仕するプラネタリウム人も、去る 9 月 5 日稀有の暴風雨の中に、橿原神宮の聖域に勤務奉仕を行ひ、地上での淨心修業の感激に浸つたことであつた。

◆10 月 2 日ペル 1 訪日經濟使節團の一行を迎へた。この人々は昨年のペル 1 日食で山本博士が知遇を受けたリマの名士達で、何だか一種の懷しさがある。清水主任の指導と高城の解説により(スペイン語通譯)ペル 1 の都リマの夜空を展開し感喜の喝采を博し、大阪の夜に來ては、彼地では珍しい北斗七星を始め北國の星空の美景に驚嘆の聲を放つた。

◆北京新政府の視察團や蒙疆の僻地から來た訪日團、印度の客やらフィリピンの客、其他個々の國々の來觀等々、大阪プラネタリウムに電氣館は東洋唯一とあるだけに、全く國際人の往來に忙しい。10 月に入ると邦人の學生旅行團が押しかける。

◆今はプラネタリウムも戰時の中!! 若い小林君が解説中に召集令を受けて感激の出發をする。これで解説者の應召は 2 人となつた。銑後は愈々緊張し多忙となる。館員は神社に參拜し、祈願者も行ふ。毎日正午にはラヂオ體操で心身を鍛練する。

◆11 月 10 日から 20 日間天文協會大阪支部と共同で、館内で『プラネタリウムと天文』展覽會を開催することになった。會員諸氏の御來觀を觀迎します。

(高城)

11 月の話題……流星と彗星(ドナチ彗星)、重星と連星